

第 4 章 公共施設における色彩景観

- 1 . 基本的考え方

(1) 景観づくりにおける公共施設の役割

公共建築物や道路、公園などの公共施設は、市民はもとより多くの来訪者の目に触れるものであり、景観づくりを進める上で重要な役割を担っています。

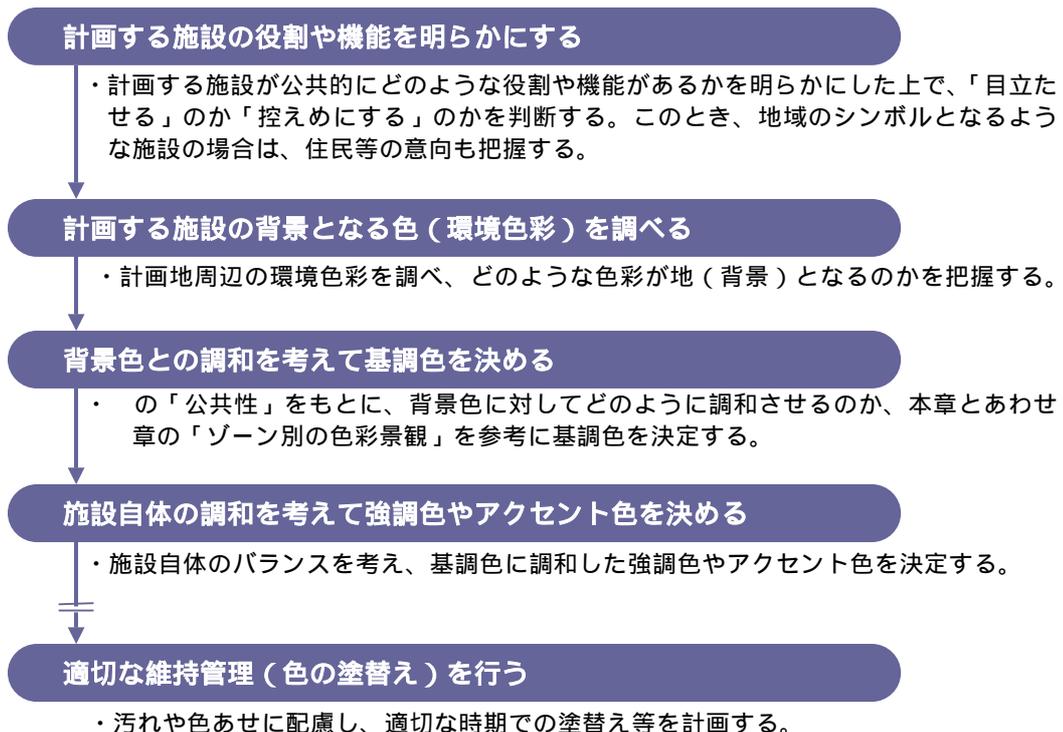
公共施設を整備する際には、それぞれが持つ機能を損なわない範囲で、周辺の景観との調和を図りながら、地域資源を活かしたり、地域の景観の骨格となるような質の高いデザインとするなど、良好な景観形成の先導的役割を果たすため、景観づくりへの配慮をすることが必要です。

(2) 公共施設の色彩計画

本ガイドラインは、「道路」「河川」「公園・広場」「公共建築物」といった公共空間において、良好な景観形成の上での色彩に関する配慮事項と市内外における参考事例を示したものです。

公共施設の整備にあたっては、これらを参考に慎重な色彩計画を行っていただくとともに、地域のシンボルとなるものなどについては、周辺住民等の意向を把握するなど、それぞれの事情にあった景観づくりが求められます。

【 公共施設における色彩検討の流れ 】

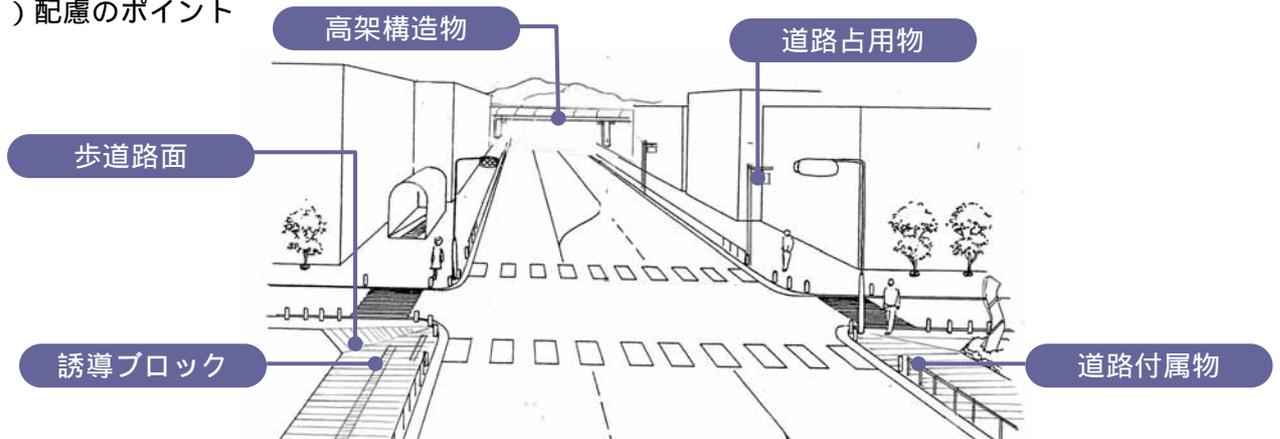


- 2 . 道路の色彩

(1) 景観形成の基本的考え方

道路は、都市の景観において大きな面積を占める「地」の景観であり、沿道の自然や街並みを引き立たせ、また、それらに対し、違和感を与えないようにすることが求められます。
 ここで繰り広げられる人の活動や街並みをいきいきと美しく見せるためにも、控えめで軽快なイメージの景観とすることが求められます。

(2) 配慮のポイント



(3) 色彩ガイドライン

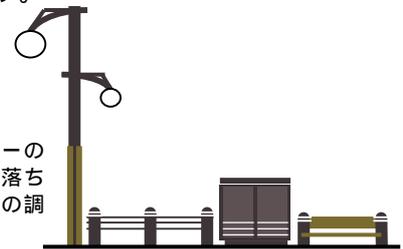
道路付属物



照明柱や信号柱を茶系色で統一し、洗練された都心景観の創出（富山県富山市）

道路付属物の色彩統一と連続性

防護柵や車止め、標識・信号機や照明灯等の道路付属物は色彩を統一することで、道路空間としての一体性を持たせることが求められます。また、短い区間で形状や色彩の異なるものを混在することなく、一定区間において色彩を統一することにより、連続性を持たせることが望まれます。



ストリートファニチャーの色をそろえることで、落ち着いた街並みとしての調和が生まれる。

道路占有物



商業モールのアクセントとなっている電話ボックスの色彩（宇都宮市）

地域のアクセントとなる色彩

必要以上に装飾的にならないように努めながら、周辺環境とのバランスを考慮した上で、地域のアクセントとなるような色彩を用いることで、飽きのこない、長い間親しまれるようにすることが望まれます。

歩道路面



大谷石の素材感を活かし、クールグレーを基調とした柔らかな色彩（宇都宮市）



路側帯のカラー化による自転車通行帯の明確化（埼玉県川口市）

誘導ブロック



舗装パターンとあわせた視覚障害者誘導ブロックの配置（東京都練馬区）

高架構造物

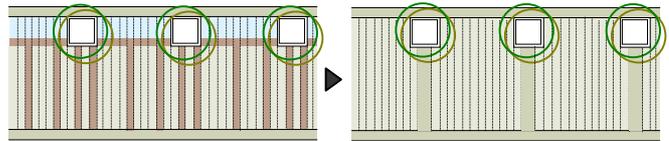


明るめのボーダーラインを入れることで圧迫感を軽減した歩行者デッキ（東京都立川市）

主張しすぎない控えめな舗装パターンと色彩

道路や広場は大きな面積を占め、都市部においては特に重要な景観要素です。あまり人工的な色を着色するのではなく、自然の素材感が感じられる柔らかな色彩とし、必要以上に派手な色彩や対比の強い色彩を組み合わせた配色、図形要素の強い舗装パターンは、飽きられやすく、景観の秩序を整える意味からも、またメンテナンスの面からも避けるべきです。

また、道路の連続性という視点から、短い区間で舗装パターンが変わらないようにすることも大切です。



シンプルで飽きのこない舗装パターンとする。

色によるわかりやすい機能の表示

自転車が通行できる路側帯や通学路をカラー化して、自動車の運転者等に注意を促すなど、機能を見た目にわかりやすく表現することも可能です。

視覚障害者誘導ブロックとの対比と調和

視覚障害者誘導ブロックは、弱視者の安全な歩行のためには大切なものです。輝度比(*)を2.0以上確保した中で、景観的にも違和感のないよう、色彩やパターンの工夫が求められます。

(*)「道路の移動円滑化ガイドライン」(国土交通省道路局)では、誘導ブロックと周りの舗装材との輝度比が「2.0程度」とすることが望ましいとしています。

(*)「輝度」: ものの明るさを表現したものであり、単位面積あたりの放射エネルギー(発散する光の量)を比視感度として輝度計で計測したものである。単位は cd/m^2 (cd: カンデラ)

重量感、圧迫感を軽減する色彩

高架構造物はボリュームも大きく、高架下を通る歩行者や運転者に重量感や圧迫感を与えがちです。そこで、汚れや色あせが目立たない範囲で明るめの色彩を使って、軽減を図ることが望まれます。

[参考] 景観に配慮した防護柵ガイドライン (国土交通省道路局)**【防護柵の色彩の基本的な考え方】****鋼製防護柵**

防護柵を設置する道路周辺の基調色が Y R 系を中心とした色彩の場合には、地域特性や防護柵の形式にあわせて、ダークブラウン(こげ茶色、10YR2.0/1.0 程度)、グレーベージュ(薄灰茶色、10YR6.0/1.0 程度)、ダークグレー(濃灰色、10YR3.0/0.2 程度)を基本とする。

この他、地域特性に応じ、以下のような色彩を候補色に加えることが考えられる。

- ・沿道に立ち並ぶビルの外壁が比較的明るい色彩を基調としているオフィス街や繁華街、開放的で比較的明るい色彩を基調とする海岸部等においては、オフホワイト(乳白色、10YR8.5/0.5 程度)を候補色に加える。
- ・10YR 系の色彩以外で、自然となじみの深い樹葉色である緑色の防護柵が一定のエリアで設置されている例が見られる。この場合は、比較的明度、彩度の低い色彩とすることが望ましい。

アルミ・ステンレス製防護柵

素材そのものの色彩を活かすことを基本とする。ただし、周辺景観との調和を図るため、電解着色や焼付塗装等を行う場合で、周辺の基調色が Y R 系を中心とした色彩の場合は、「鋼製防護柵」で示した色彩を基本とする。

コンクリート製防護柵

コンクリートは経年変化によって色合いが変化し、徐々に景観に馴染んでくる素材のため、塗装は行わず、素材が持つ色彩を活かすことを基本とする。

木製防護柵

塗装や腐敗処理を行う際は、素材そのものの色彩や木目などが活かされるよう配慮する。

【防護柵が設置される構造物との色彩調和】

防護柵が橋梁等の構造物に設置され、かつ当該構造物を眺める主要な視点が道路外部にある場合は、当該構造物を構成する部位の色彩と防護柵の色彩の調和にも配慮する。

【防護柵の統一と他施設との調和】

防護柵は連続的に設置される施設であるため、短い区間で複数の形状・色彩の異なる種類を混在させることなく、形状・色彩の統一を図ることにより、まとまりある連続的道路空間を形成する。

[参考] 景観形成ガイドライン「都市整備に関する事業」(国土交通省都市・地域整備局)**【街路事業における景観形成】****(歩道の舗装)**

歩道の舗装材は、歩行環境に相応しい歩きやすいものを用い、それ自体が目立つのではなく、沿道景観と植栽や歩行者が映える色調のものとし、控え目なデザインとすることが望ましい。安易に模様貼りなどを行わず、歩道空間をシンプルなものとするのが基本である。

(歩道に設置する施設)

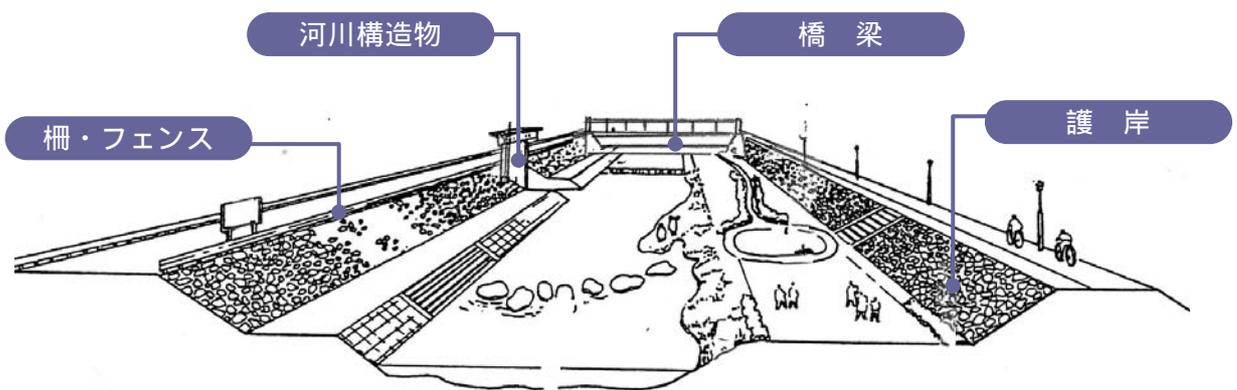
歩道上やその周辺に設置される施設などは、相互に脈絡が感じられる形態、色彩のデザインとすることが望ましい。

- 3 . 河川の色彩

(1) 景観形成の基本的考え方

河川は、水や緑が連続する貴重な自然の景観軸であり、これらの広がりある眺望を考慮する必要があります。原則として、自然地においては周辺の自然にとけ込むよう、都市部においては地域のシンボルとなるような景観とすることが求められます。

(2) 配慮のポイント



(3) 色彩ガイドライン

護岸



沿川の樹林と調和した色彩の自然石による護岸（富山県富山市）



コンクリート擁壁に変化を付けた都市河川の護岸（東京都新宿区）

自然の風合いを意識した色彩

護岸は、水や緑といった自然の景観を損なわないよう、できる限り自然の風合いを持たせた素材や色彩に心がけます。

特にコンクリート等を用いる場合も、表面の凹凸による質感に変化をつける程度とし、高彩度の人工的な着色は行わないものとします。

河川構造物



特異な形態も周辺の景観から突出して見えない無彩色の水門（富山県砺波市）

特徴的な形態を目立たせない色彩

水門や堰、揚・排水施設等の構造物は、その形態から河川空間において目立ちやすい存在であるため、色彩は低彩度に抑え、できる限り目立たないように配慮します。

柵・フェンス



自然素材と人工素材を違和感なく取り合わせた色彩の防護柵（宇都宮市）

自然素材と人工素材の効果的な組み合わせ

柵やフェンスは安全性の確保や耐久性を考慮し、金属等を用いる場合が多いと思われます。そのようなときも、できる限りシンプルで、自然素材と組み合わせた場合の違和感がないような色彩とすることが望まれます。

橋梁



自然の背景に違和感なくとけ込んだ石貼りの橋脚と木製の高欄（富山県南砺市）

重量感を感じさせない明るめの色彩

河川にかかる橋梁は、河川軸線上の視界が開けた場所に架けられ、視界を横切るような形態をしているため、遠方からでも目につきやすいものです。

良好な、広がりのある眺望景観を妨げないためにも、周辺景観に調和し、あまり重量感を感じさせない色彩とすることが求められます。

[参考] 河川景観ガイドライン（国土交通省河川局）

【風土的な色彩と素材】

河川景観は、自然の営み・人の営みによって形成されるものであり、景観構成要素である河原の石、屋根の瓦等の色彩や素材は、その土地の風土が形になって現れたものとも言える。河川空間のデザインに際しては、この風土を理解し、風土に合った色彩と素材を使うことが大切である。

[参考] 砂防関係事業における景観形成ガイドライン（国土交通省砂防部砂防計画課）

【周辺環境と調和させる工夫】

時間経過に伴う明度・彩度の低下が期待できる材料を用いる。

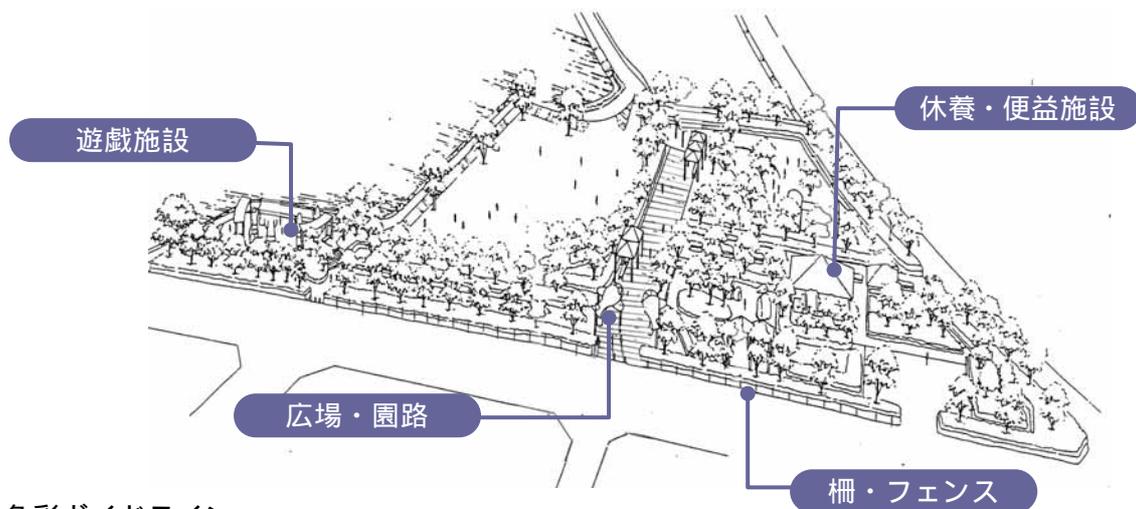
表面の着色は、時間経過により色褪せる。このため、材料の持っている特性を活かす工夫が必要である。

- 4 . 公園・広場の色彩

(1) 景観形成の基本的考え方

公園は、人々が憩い、自然とふれあう空間であり、地域にうるおいや安らぎを与える空間です。子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の人が楽しく、快適に利用できるよう、周辺の街並みや自然と調和を考慮しながら、親しみが持てる景観とすることが求められます。

(2) 配慮のポイント



(3) 色彩ガイドライン

広場・園路



時間の経過により、周辺の自然色彩に馴染んでいる木材を使った遊歩道（富山県南砺市）

自然素材の色を活かした色彩

公園の広場や園路の舗装面は、自然素材そのままの色を活かす、あるいは人工素材を用いる場合も、できる限り自然の色に近い、落ち着いた色とし、回りの自然に調和させることが求められます。

遊戯施設



青、赤色をアクセント的に使い、楽しさを演出している遊具（宇都宮市）

高彩度色を効果的に用いた遊戯施設の色彩

遊戯施設は、赤や黄、青色など明るく、彩度の高い色を効果的に用いることにより、子どもたちが楽しく、興味を持てるようにすることも必要です。

色あせや錆による劣化にも十分配慮し、適宜、塗替えを行うことも大切です。

休養・便益施設



グレー系でまとめられた、都心にある公園内のクラブハウス（神奈川県横浜市）

利用者の特性に応じた色彩の選定

あずま屋やトイレ等は周辺の調和を図るとともに、利用者特性に応じた色彩の選定が必要です。

例えば、自然に調和する素朴なものとするなら茶系、落ち着いた都会的なものとするならベージュやグレー系、トイレなど清潔感が大切な施設は白やパステルカラー、主に子どもが利用する施設は赤や黄、緑系の明るい色彩などが考えられます。

柵・フェンス



石垣の上に濃茶色の金属製手摺を違和感なく組み合わせた柵のデザイン（富山県南砺市）

人工素材の自然色塗装

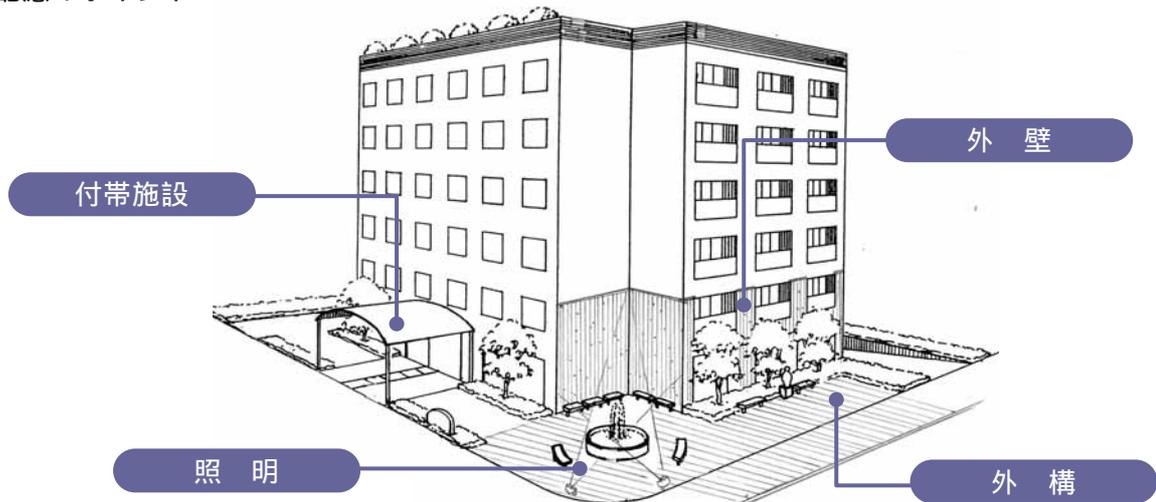
柵やフェンスに金属等を用いる場合は、自然素材と組み合わせた場合の違和感がないよう、低彩度の茶系や緑系等の色彩とすることが望まれます。

- 5 . 公共建築物の色彩

(1) 景観形成の基本的考え方

不特定多数の人が利用する公共建築物は、遠くからも良く見える位置に立地していることが多く、地域のシンボリックな存在であり、地域の景観を先導する重要な役割を有しています。
地域の特色を表現したなかで、親しみとやさしさの感じられる景観とすることが求められます。

(2) 配慮のポイント



(3) 色彩ガイドライン

外 壁



地場産の大谷石を使った、シンボリックな公衆便所（宇都宮市）

地場の資源や産材の効果的活用

地域のシンボルとなる建築物においては、地場の資源や産材を部分的に用いて地域らしさの創出に努めることも効果的です。

外 構



道路空間と建築物の外構の色調をそろえることで敷地境界の感じられない施設（富山県富山市）

敷地境界を感じさせない一体性のある色彩

敷地境界領域を歩行者空間として利用する場合は、隣接する歩道舗装との材料や色彩、舗装パターンを統一あるいは近似させることにより、歩行者をスムーズに敷地内に誘導することができます。

付帯施設



建築物壁面と調和したグレー系の塗装を施した外部階段（兵庫県城崎町）

建築物との調和を考慮した付帯施設の色彩

付帯施設も建築物の一部として捉え、建築物本体との調和を考慮しながら、建築物の表情をつくるよう、アクセント色や主張色を効果的に用います。

照明



場所に応じた光源色の選定

ライトアップにより夜間景観の魅力を高める場合は、過剰な光が散乱しないよう配慮するとともに、場所に応じて白色・黄色・青色等の光源を選定します。また、これらの照明施設は、できる限り昼間は目立たないよう、支柱や付帯設備などは低明度・低彩度の色彩とすることが望まれます。

左：高圧ナトリウムランプ
右：水銀ランプ
[資料：照明メーカーカタログ]

[参考] 各種光源の特徴

光源はそれぞれ異なる光色を持ち、照明対象物の色彩効果に影響を与えるので注意を要します。光源ごとの照明効果は、以下のように言われています。

		高圧ナトリウムランプ	蛍光水銀ランプ	蛍光ランプ	メタルハライドランプ	白熱電球
光源色		黄色	白色	白色	青白色	橙白色
色彩効果	強調色	橙・黄	黄・緑・青	橙・黄	黄・緑・青	赤・橙
	暗くなる色	黄系を除いた色	赤・橙	赤	赤	青
適用		人通りの多い場所に適する	樹木や芝生の緑を鮮やかに見せるのに適する	庭園、遊歩道など点的な演出に効果的である	人通りの多い場所や高い演出効果が求められる場所に適する	黄・赤味を美しく見せる効果があり、看板照明等に適する

[出典：(社)照明学会・照明普及会資料]

[参考] 住宅・建築物等整備事業に係る景観形成ガイドライン（国土交通省住宅局）

【地域の自然や街並みの色彩を考慮する】

現在の風景や街並みの色彩は、地域の自然環境や地場の素材などに根ざしたものが多く、それらを考慮して建築物の色彩を検討する必要がある。地域の色彩の調査においては、単に赤、青などの色相だけでなく、彩度、明度及び素材感などについても調査が必要であり、また、石・木材・漆喰・タイルなどの素材感や表面仕上げ、光の当たり方による色の見え方の違いなどにも留意する必要がある。また、建築物の屋根や外壁にアクセントカラーをつける場合は、その施設や周辺地域の街並み等を考慮し、違和感を生じさせないようにすることが望ましい。